# 112 学年度第一学期ユーラシア財団（from Asia）国際講座
# 「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」シリーズ講座（4）
# テーマ：仏教の東亜変容からみた日本の仏教
# －『歎異抄』を例として－

涂玉盞（第四講座 / 要約）

2023.10.05

仏教は世界各地に普及する過程で、現地の政治、経済、風習、文化などとの相互交流により、自然に様々な起源の精髄を持ちながらも現地特有の仏教思想や文化が育まれました。この講義では、『歎異抄』を例として、仏教が日本でどのように変容したかを探究します。

浄土宗は日本に伝わった後、日本の仏教界では大いに注目されました。浄土宗の開祖法然（1133-1212）は、彼の著作である「選択本願念仏集」で、「往生之業、念佛為先」という考えを掲げ、専修念仏を主張しました。彼の弟子である親鸞（1173-1263）は、日本浄土真宗の開祖として尊ばれ、他力念仏を主張しました。

## 1.『歎異抄』の流伝と現況

『歎異抄』は日本浄土真宗の開祖である親鸞（1173-1263）の語録で、親鸞晩年の高弟である唯円（1222-1288）によって記されました。『歎異抄』の有名な言葉「善人尚以往生，何況悪人乎」は、日本仏教の「悪人正機」思想の代表となりました。明治時代以降、『歎異抄』は日本国内で注目を浴びるようになりました。清沢満之（1863-1903）などの人々が推奨したことにより、多くの人々が再び『歎異抄』に注目するようになりました。『歎異抄』を読むブームは現在に至るまで衰えることなく続いています。

## 2.現存する『歎異抄』の構造

『歎異抄』は項目別に記述され、全文で 18 条から構成されています。前半部分は親鸞の言葉であり（第 1～10 条）、これは親鸞が入寂してから約 25～26 年後に、唯円が「耳底に残った」親鸞の教えをまとめたものです。後半部分は著者である唯円の慨嘆であり（第 11～18 条）、これは当時の親鸞の弟子たちが親鸞の言葉を誤解した異義に対する批判です。

## 3.『歎異抄』における異議

『歎異抄』の第 11～18 条で述べられている異義は、親鸞が入寂後、浄土真宗と呼ばれる念仏の宗派内において、親鸞の教義に対する理解に意見の分かれる状況が生じたことを説明しています。主要な分岐点は(1)機(2)行という 2 つの側面にあります：

(1) 機の側面において、当時、一部の人々は親鸞の「悪人正機」の主張を誤解し、往生を果たすためにわざと悪事を犯す必要があると誤解しました。唯円はこれを明確に否定し、親鸞が言う「悪人」は根機愚鈍の自己であるとし、その根機愚鈍の者は往生できるかは悪事をすることと関係なく、ただ阿弥陀仏の本願に頼ることのみだと説明しました。

(2) 行の側面において、一部の人々は、根機愚鈍の者は布施、懺悔などの善行を行わない限り、往生できないと主張しました。唯円はこれに反論し、布施や懺悔などの善行は自力善行であり、他力本願の意に合致しないため、往生には関係がないと述べました。

## 4.『歎異抄』が主張する念仏の真意

『歎異抄』の第1～10条には、親鸞の主張が記録されています。親鸞は、「煩悩具足のわれらは、いづれの行にでも、生死をはなるることあるべからず」と主張しました（第3条)。「ただ念仏して弥陀の本願に救い取られる」（第2条)。「願ををこしたまふ本意、悪人成仏のためなれば、、他力をたのみたてまつる悪人、もとも往生の正因なり」（第3条)「念仏まうさんとおもひたつこころのをこるとき、すなはち摂取不捨の利益にあづけしめたまふなり……。ただ信心をえうとすとしるべし」（第1条)。このように、『歎異抄』における念仏は「仏力」によって与えられる「他力念仏」である。念仏は「仏力」の賜りなら、仏を信じる「信心」が重要になります。

唯円は、当時の念仏の宗派が師である親鸞の念仏の真意を本当に理解できなかったことに深い憂慮を感じています。親鸞の念仏の真意に関して、『歎異抄』の第10条では、「念仏には無義をもて義とす。不可称、不可説、不可思議のゆへにと、」と述べています。これは親鸞の念仏と信心に関する基本原則です。この「無義をもて義とす」という主張は、親鸞の書簡集でも頻繁に見られます。ここでの2つの「義」のうち、「無義」の「義」は仏教用語の「計度分別」で解釈できる。つまり、人間の思考、思慮、分別などを指します。後者の「義」は

道理の意味です。親鸞が表したいのは、行者の思考、分別に基づいての念仏は自力であり、他力念仏は計度分別の心を捨てた念仏である。弥陀の本願を信じると必ず往生できる。だから、人為的思考や分別は要らない、だから「不可称、不可説、不可思議のゆへ」と述べています。

**結び**

浄土宗の修行法：

1. 浄土三部経：

「至心信樂、乃至十念」、「發菩提心、修諸功德」、「植眾德本、至心迴向」、「十六觀」、「持佛名號」。

2. 中國淨土教：

「稱名念佛」、「觀像念佛」、「觀想念佛」、「實相念佛」。

3. 日本の浄土宗：

法然：専修念仏/稱名念仏。

親鸞：唯信念仏/報恩念仏。

凃玉盞　整理

陳順益　日本語訳